

McSS 経営診断報告書

シーアールディーコウキョウカブシキカイシャ

貴社名: CRD工業株式会社

診断決算期: 2018年3月期

診断業種名: 輸送用機械器具製造業

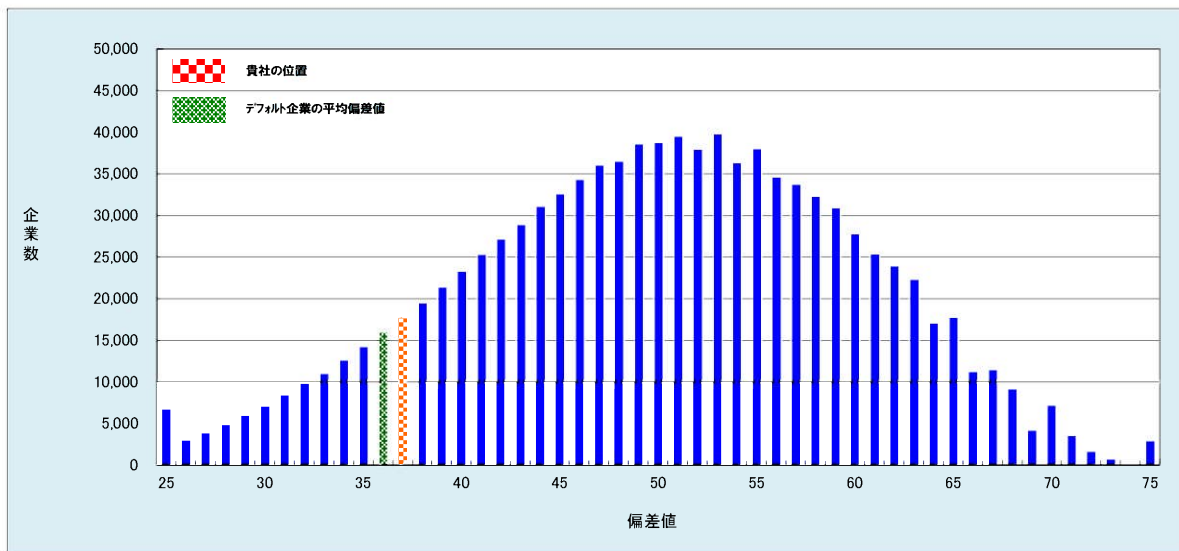
本報告書は、貴社ご提供の財務データに基づき、一般社団法人CRD協会のMcSS(中小企業経営診断システム)を用いて作成しています。貴社の財務状況と業界水準を対比し、貴社の健全経営の促進にご活用いただくためのものであり、与信審査に用いるものではありません。なお、CRD及びMcSSは一般社団法人CRD協会の保有する登録商標です。

McSS 経営診断報告書

CRD法人2015年決算データ(2018年2月末時点)

【CRDモデルによる総合評価結果】

ここでは、貴社の決算書をCRDモデルで評価させていただき、全国の中小企業における貴社の信用力の相対的な位置づけをCRDランク(A～E)及び偏差値で表しています。偏差値は高いほど信用力が高いことを示しています。また順位は業種内・都道府県内・売上規模区分内での貴社の順位を示しています。



決算期	CRDランク (A～E)	貴社偏差値	デフォルト企業平均偏差値	輸送用機械器具製造業		福島県		同売上規模企業群での順位	
				企業群での順位	企業群での順位	売上規模区分	順位		
2018/03期 (12ヶ月)	D	37	36	7,432位 (8,066社中)	11,791位 (12,877社中)	1億円超 3億円以下	243,092位 (265,907社中)		
2017/03期 (12ヶ月)	C	44	36	6,355位 (8,066社中)	10,043位 (12,877社中)	1億円超 3億円以下	205,946位 (265,907社中)		
2016/03期 (12ヶ月)	C	45	36	6,184位 (8,066社中)	9,697位 (12,877社中)	1億円超 3億円以下	198,973位 (265,907社中)		

注)決算月数が12ヶ月以外の場合、12ヶ月換算したうえで売上規模区分を判断しています。

【CRDモデルでみた貴社の財務状況】

ここでは、貴社の当期の決算書について、中小企業の財務状況を表す代表的な10カテゴリー毎に、CRDモデルでみた財務面の強み・弱みを「○」「●」表示し、改善の余地があるカテゴリーについてはそのウェイト(寄与率)を表しています。ウェイト(寄与率)は、大きいほど財務面の弱みであることを示しており、経営改善に当たってはウェイトの大きいカテゴリーについて優先的に取り組むことをお勧めします。

評価のカテゴリー	代表的な財務指標名	財務面の強み・弱み (良好な場合は「○」、改善の余地がある場合は「●」)	財務面の弱みを評価した各カテゴリーのウェイト (寄与率)
資本の安定性	自己資本比率、純資産倍率 など	○	—
調達と運用の適合性	固定長期適合率、固定比率 など	○	—
成長性	前年比増収率、総資本増減率 など	○	—
売上高利益	売上高経常利益率、売上高総利益率 など	●	3.5%
資産の健全性	減価償却率、売上高減価償却費率 など	●	9.4%
短期支払能力	現預金比率、流動比率 など	●	9.8%
回転率・回転期間	総資本回転率、売上債権回転日数 など	●	10.8%
総合収益性	総資本経常利益率、総資本営業利益率 など	●	15.6%
債務償還能力	キャッシュフロー有利子負債比率、インタレストカバレッジレシオ など	●	18.4%
借入状況	借入金月商倍率、借入金依存度 など	●	32.5%
合計			100.0%

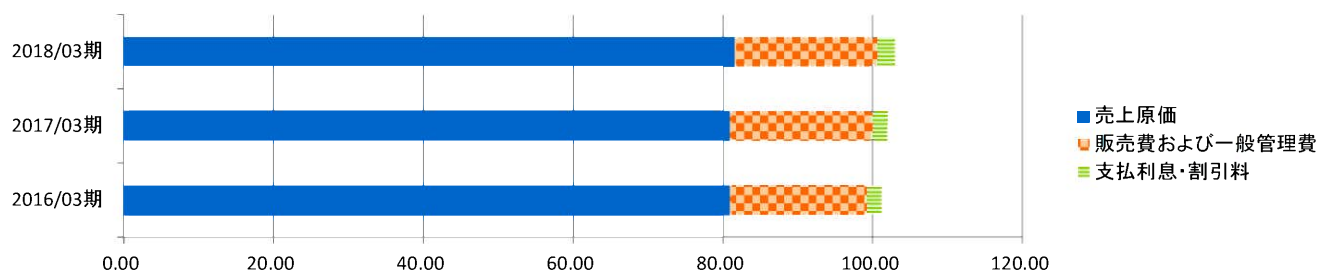
注)財務面の強み・弱みが「—」表示のカテゴリーは、業種特性により、CRDモデルの評価対象に含まれておりません。

McSS 経営診断報告書

CRD法人2015年決算データ(2018年2月末時点)

【経常費用分析】

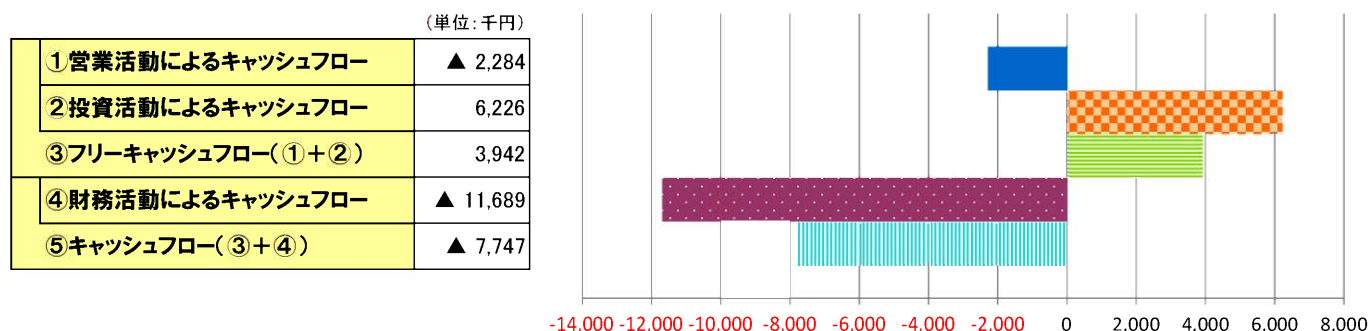
本分析は、各決算期毎に、売上高を100とした場合に、それぞれの経常費用項目(売上原価、販売費および一般管理費、支払利息・割引料)が売上高に対してどの程度となっているか、構成比を算出し、3期分を時系列比較したものです。



決算期	売上原価	販売費および一般管理費	支払利息・割引料	合計
2018/03期 (12ヶ月)	81.59	19.04	2.36	102.99
2017/03期 (12ヶ月)	80.96	19.00	1.98	101.94
2016/03期 (12ヶ月)	80.96	18.23	1.95	101.14
輸送用機械器具製造業 (同業種中央値)	74.54	23.46	0.56	98.56
福島県 (同都道府県中央値)	66.53	34.68	0.49	101.70

【キャッシュフロー分析】

本分析は、貴社の決算書をもとに、間接法によるキャッシュフローを計算し、グラフ表示したものです。



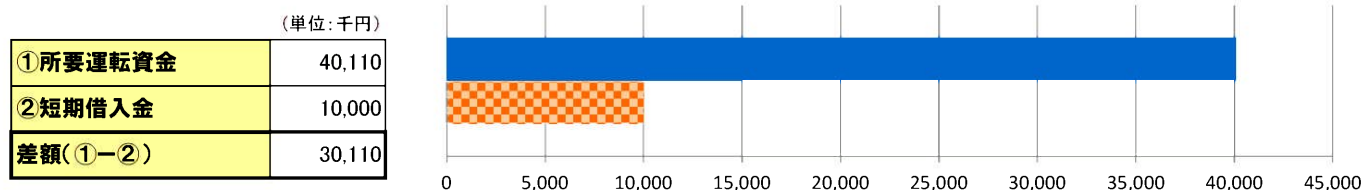
【所要運転資金・債務償還年数分析】

本分析は、貴社の決算書をもとに、「所要運転資金」「債務償還年数」を算出し、貴社の借入状況に問題がないかを点検したものです。

(1) 所要運転資金分析

所要運転資金 = (受取手形 + 売掛金 + 棚卸資産合計) - (支払手形 + 買掛金)

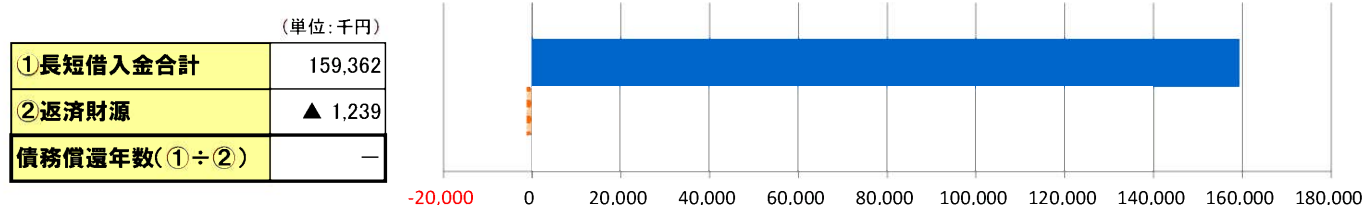
⇒ 短期借入金がこの金額内であれば適正です。



(2) 債務償還年数分析

債務償還年数 = 長短借入金合計(短期借入金 + 社債・長期借入金) ÷ 返済財源(税引後当期純利益 + 減価償却実施額)

⇒ 毎年の返済財源で借入金を完済するのに何年かかるかを表します。



McSS 経営診断報告書

CRD法人2015年決算データ(2018年2月末時点)

【決算概況】

(単位:千円)

貸借対照表	2016/03期		2017/03期			2018/03期			備考
	(12ヶ月)	構成比	(12ヶ月)	構成比	増減	(12ヶ月)	構成比	増減	
現金・預金	9,390	3.53	10,763	3.98	1,373	3,016	1.18	▲ 7,747	
受取手形	14,488	5.45	15,933	5.88	1,445	13,043	5.10	▲ 2,890	
売掛金	19,156	7.21	22,119	8.17	2,963	16,193	6.34	▲ 5,926	
棚卸資産合計	29,694	11.18	26,027	9.61	▲ 3,667	33,361	13.05	7,334	
その他流動資産合計	1,253	0.47	745	0.28	▲ 508	1,763	0.69	1,018	
流動資産合計	73,981	27.85	75,587	27.92	1,606	67,376	26.36	▲ 8,211	
有形固定資産合計	162,525	61.18	161,024	59.47	▲ 1,501	164,026	64.18	3,002	
(うち土地)	63,918	24.06	63,918	23.61	0	63,918	25.01	0	
無形固定資産	3,556	1.34	3,556	1.31	0	3,556	1.39	0	
投資等合計	25,594	9.63	30,594	11.30	5,000	20,594	8.06	▲ 10,000	
固定資産合計	191,676	72.15	195,175	72.08	3,499	188,177	73.64	▲ 6,998	
繰延資産	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00	0	
資産合計	265,657	100.00	270,763	100.00	5,106	255,553	100.00	▲ 15,210	
支払手形	18,770	7.07	18,909	6.98	139	15,631	6.12	▲ 3,278	
買掛金	6,770	2.55	6,683	2.47	▲ 87	6,856	2.68	173	
短期借入金	20,000	7.53	25,000	9.23	5,000	10,000	3.91	▲ 15,000	
流動負債合計	50,820	19.13	56,574	20.89	5,754	40,065	15.68	▲ 16,509	
社債・長期借入金	146,754	55.24	146,051	53.94	▲ 703	149,362	58.45	3,311	
固定負債合計	146,754	55.24	146,051	53.94	▲ 703	149,362	58.45	3,311	
特別法上の準備金	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00	0	
負債合計	197,574	74.37	202,626	74.84	5,052	189,427	74.12	▲ 13,199	
資本金	10,000	3.76	10,000	3.69	0	10,000	3.91	0	
(繰越利益剰余金)	53,084	19.98	53,136	19.62	52	51,126	20.01	▲ 2,010	
純資産合計	68,084	25.63	68,136	25.16	52	66,126	25.88	▲ 2,010	
負債・純資産合計	265,657	100.00	270,763	100.00	5,106	255,553	100.00	▲ 15,210	
損益計算書									
売上高	151,276	100.00	149,948	100.00	▲ 1,328	124,286	100.00	▲ 25,662	
売上原価	122,470	80.96	121,399	80.96	▲ 1,071	101,405	81.59	▲ 19,994	
(うち労務費)	53,886	35.62	52,201	34.81	▲ 1,685	42,590	34.27	▲ 9,611	
売上総利益	28,806	19.04	28,549	19.04	▲ 257	22,881	18.41	▲ 5,668	
販売費および一般管理費	27,581	18.23	28,497	19.00	916	23,665	19.04	▲ 4,832	
(うち人件費)	20,427	13.50	21,353	14.24	926	19,502	15.69	▲ 1,851	
営業利益	1,225	0.81	51	0.03	▲ 1,174	▲ 785	▲ 0.63	▲ 836	
営業外収益合計	5,443	3.60	3,133	2.09	▲ 2,310	1,753	1.41	▲ 1,380	
(うち受取利息・配当金)	122	0.08	119	0.08	▲ 3	124	0.10	5	
営業外費用合計	2,951	1.95	2,968	1.98	17	2,933	2.36	▲ 35	
(うち支払利息・割引料)	2,951	1.95	2,968	1.98	17	2,933	2.36	▲ 35	
経常利益	3,717	2.46	216	0.14	▲ 3,501	▲ 1,965	▲ 1.58	▲ 2,181	
特別利益	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00	0	
特別損失	0	0.00	0	0.00	0	0	0.00	0	
当期純利益(税引後)	2,120	1.40	52	0.03	▲ 2,068	▲ 2,009	▲ 1.62	▲ 2,061	
その他脚注項目など									
受取手形割引高	0	—	0	—	0	0	—	0	
受取手形裏書譲渡高	0	—	0	—	0	0	—	0	
減価償却実施額	9,724	—	10,027	—	303	770	—	▲ 9,257	
期末従業員数(人)	5	—	5	—	0	5	—	0	
キャッシュフロー計算書									
営業活動によるキャッシュフロー	13,695	—	10,600	—	▲ 3,095	▲ 2,284	—	▲ 12,884	
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 6,893	—	▲ 13,524	—	▲ 6,631	6,226	—	19,750	
フリーキャッシュフロー	6,802	—	▲ 2,924	—	▲ 9,726	3,942	—	6,866	
借入金増減	▲ 9,483	—	4,297	—	13,780	▲ 11,689	—	▲ 15,986	
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 9,483	—	4,297	—	13,780	▲ 11,689	—	▲ 15,986	
キャッシュフロー	▲ 2,681	—	1,373	—	4,054	▲ 7,747	—	▲ 9,120	
前期末現金・預金残	12,071	—	9,390	—	▲ 2,681	10,763	—	1,373	
現金・預金増減額	▲ 2,681	—	1,373	—	4,054	▲ 7,747	—	▲ 9,120	
期末現金・預金残	9,390	—	10,763	—	1,373	3,016	—	▲ 7,747	
所要運転資金・債務償還年数									
所要運転資金	37,798	—	38,487	—	689	40,110	—	1,623	
債務償還年数	14.08	—	16.97	—	2.89	—	—	—	

注)「新株予約権」は純資産合計から控除し、固定負債合計・負債合計に含めています。

McSS 経営診断報告書

貴社名: CRD工業株式会社

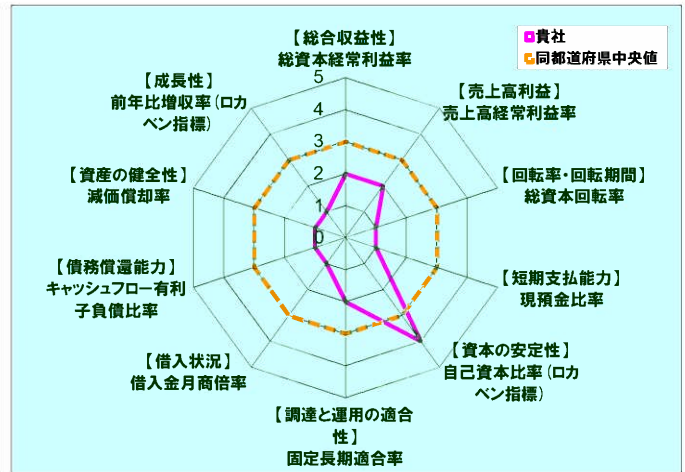
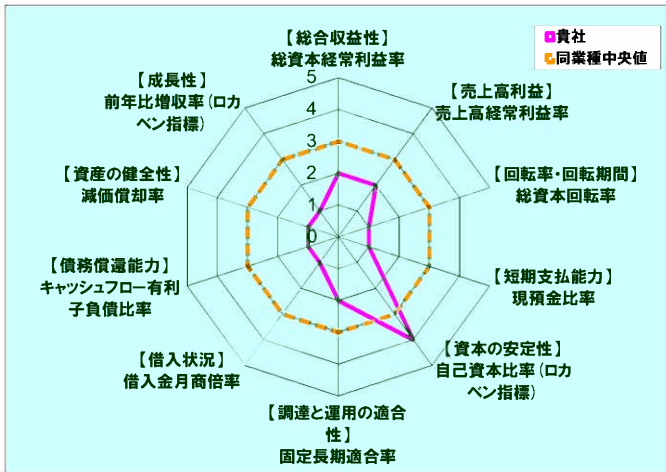
CRD法人2015年決算データ(2018年2月末時点)

【財務バランスチェック】

ここでは、中小企業の財務状況を表す代表的な10指標について、同業種及び同都道府県内における位置付けを、「中央値(標準的な姿)」との比較、及び「財務ランク(5~1:各群を5等分した区分)」との対応にてチェックしています。

業種: 輸送用機械器具製造業

都道府県: 福島県



診断結果		単位	計算式	2018/03期	同業種中央値	業界財務ランク(5~1)	同都道府県中央値	都道府県内財務ランク(5~1)	評価コメント (業界財務ランクが2又は1の場合)
評価の 카테고리	評価指標名								
①	総合収益性	%	経常利益 ÷ 総資本(総資産) × 100	-0.77	2.34	! 2	1.77	! 2	資産全体を使って生み出す経常利益が、同業他社比やや過小です。売上原価や販管費の見直し、遊休資産等収益に直接寄与しない資産の処分を検討して下さい。
②	売上高利益	%	経常利益 ÷ 売上高 × 100	-1.58	1.80	! 2	1.12	! 2	営業利益に、金融取引等本業以外の収支を加味した経常利益が、同業他社比やや過小です。販売価格引上げ、製造原価・販管費の削減に加え、借入金削減による支払利息の削減を検討して下さい。
③	回転率・回転期間	回	売上高 ÷ 総資本(総資産)	0.49	1.31	!! 1	1.64	!! 1	総資本(総資産)を投下・活用して獲得された売上高が、同業他社比かなり過小です。売上増加策の検討や、遊休資産の処分など総資本(総資産)の削減を早急に検討して下さい。
④	短期支払能力	%	現金・預金 ÷ 売上高 × 100	2.43	12.06	!! 1	10.69	!! 1	売上規模に比べ保有している現預金残高が同業他社比かなり過小です。現金や流動性預金を確保することや運転資金の借入等資金繰り安定化を早急に検討して下さい。
⑤	資本の安定性	%	資本合計(※) ÷ 総資本(総資産) × 100	25.88	15.64	4	12.34	4	
⑥	調達と運用の適合性	%	固定資産合計 ÷ (資本合計(※) + 固定負債合計 + 特別法上の準備金) × 100	87.33	68.01	! 2	66.01	! 2	自己資本と固定負債による調達に対し、投資している固定資産が同業他社比やや過多です。短期借入金の長期借入金への切替、遊休資産の処分など、調達と運用のバランス調整を検討して下さい。
⑦	借入状況	倍	(短期借入金 + 社債・長期借入金) ÷ (売上高 ÷ 12)	15.39	4.97	!! 1	4.25	!! 1	月商に比べ、借入金が同業他社比かなり過多です。借入金の削減を早急に検討して下さい。
⑧	債務償還能力	%	(当期純利益 + 減価償却実施額) ÷ (短期借入金 + 社債・長期借入金 + 受取手形割引高) × 100	-0.78	9.88	!! 1	10.27	!! 1	借入金に対し、返済財源であるキャッシュフロー(当期純利益 + 減価償却実施額)が同業他社比かなり過小です。借入金の削減等を早急に検討して下さい。
⑨	資産の健全性	%	減価償却実施額 ÷ (有形固定資産合計 - 土地 + 減価償却実施額) × 100	0.76	17.38	!! 1	19.25	!! 1	土地を除く有形固定資産に対し、減価償却実施額が同業他社比かなり過小です。適正な減価償却が実施されているか、実施できない理由は何かを早急に検討して下さい。
⑩	成長性	%	(売上高(当期) ÷ 売上高(前期) - 1) × 100	-17.11	1.78	!! 1	0.98	!! 1	売上高の対前年伸び率が、同業他社比かなり低めです。販売価格の引上げ、より単価の高い商品へのシフト、販路の開拓等売上増加策を早急に検討して下さい。

注) 決算月数が12ヶ月以外の場合、12ヶ月換算したうえで財務指標値を算出しています。

McSS 財務指標一覽算出結果

診断日: 2019/00/00

業種: 輸送用機械器具製造業
都道府県: 福島県

シーアールディーコウキョウカブシカイシャ
貴社名: CRD工業株式会社

CRD法人2015年決算データ(2018年2月末時点)

指標名	良否	2016/ 03期	2017/ 03期	2018/ 03期	同業種 中央値	業界 財務ランク (5~1)	同都道府県 中央値	都道府県内 財務ランク (5~1)	指標の意味	ランクが低い場合の一般的な原因と改善策
① 総合収益性[貸借対照表、損益計算書で企業の経営状態を評価する指標]										
1 総資本営業利益率 営業利益÷総資本(総資産)×100[%]	↑	0.46	0.02	-0.31	1.89	! 2	0.62	3	企業が総資本(総資産)を使って営業活動を行った結果、どの程度営業利益を上げたかを示す指標です。総資本とは負債と資本を合計したものの。	営業利益が過小であるか、総資本(総資産)が過大であることが原因です。 【改善策】 ・売上原価の低減、販売費および一般管理費の削減 ・不良在庫、遊休資産の処分
2 総資本経常利益率 経常利益÷総資本(総資産)×100[%]	↑	1.40	0.08	-0.77	2.34	! 2	1.77	! 2	企業が総資本(総資産)を使って経営活動を行った結果、どれだけ経常利益を上げたかを示す指標です。	経常利益が過小であるか、総資本(総資産)が過大であることが原因です。 【改善策】 ・売上原価の低減、販売費および一般管理費、支払利息の削減 ・不良在庫、遊休資産の処分
3 総資本当期純利益率(ROA) 当期純利益÷総資本(総資産)×100[%]	↑	0.80	0.02	-0.79	1.66	! 2	1.49	! 2	企業に投下された総資本(総資産)が、利益獲得のためにどれだけ効率的に利用されたかを示す指標です。	当期純利益が過小であるか、総資本(総資産)が過大であることが原因です。 【改善策】 ・売上原価の低減、販売費および一般管理費、支払利息の削減 ・不良在庫、遊休資産の処分
4 自己資本当期純利益率(ROE) 当期純利益÷資本合計(※)×100[%]	↑	3.11	0.08	-3.04	6.79	!! 1	9.37	!! 1	調達資本を自己資本に限定して、当期純利益と比較することによって、自己資本が利益獲得のためにどれだけ効率的に利用されたかを示す指標です。 ※資本合計がゼロ以下となる場合は評価しません。	自己資本に対し、当期純利益が過小であることが原因です。 なお、この指標は、自己資本額が非常に大きい優良な企業の場合、ランクが低くなる点がある点に注意が必要です。 【改善策】 ・売上原価の低減、販売費および一般管理費、支払利息の削減
5 1人あたり営業利益(ロカベン指標) 営業利益÷期末従業員数[千円]	↑	245.00	10.20	-157.00	219.17	! 2	78.00	! 2	従業員一人当たりの付加価値額のことを示し、投入された労働力が効率的に利用されているかを示す指標です。経産省公表『ローカルベンチマーク』の財務指標『労働生産性』に相当します。	営業利益が過小であるか、労働効率に改善余地があることが原因です。 【改善策】 ・売上原価の低減、販売費および一般管理費の削減 ・新たな製品やサービスの開発等を通じた付加価値額の向上 ・業務の合理化や生産効率の高い設備への更新等による労働効率の向上
② 売上高利益[損益計算書の勘定科目で企業の収益性を評価する指標]										
6 売上高総利益率 売上総利益÷売上高×100[%]	↑	19.04	19.04	18.41	25.45	! 2	33.47	! 2	売上高に対する売上総利益(粗利益)の割合を示す指標です。	販売価格が低めであるか、仕入・製造原価が高めであることが原因です。 【改善策】 ・販売価格の見直しによる利益率の改善 ・仕入方法の見直し、適正な在庫管理による売上原価の低減
7 売上高営業利益率(ロカベン指標) 営業利益÷売上高×100[%]	↑	0.81	0.03	-0.63	1.51	! 2	0.37	3	売上高に対して本業からの利益をどの程度生み出すことができたかを示す指標です。 経産省公表『ローカルベンチマーク』の財務指標『営業利益率』に相当します。	売上に対し、売上原価、あるいは販売費および一般管理費が過大であることにより、営業利益が過小であることが原因です。 【改善策】 ・仕入方法の見直し、適正な在庫管理による売上原価の低減 ・販売費および一般管理費の削減
8 売上高経常利益率 経常利益÷売上高×100[%]	↑	2.46	0.14	-1.58	1.80	! 2	1.12	! 2	財務活動等も含めた通常の企業活動における、売上高に対する経常利益の割合を示し、金融取支等も含めた総合的な収益力を示す指標です。	売上に対し、売上原価や販売費および一般管理費、支払利息が過大であることにより、経常利益が過小であることが原因です。 【改善策】 ・仕入方法の見直し、適正な在庫管理による売上原価の低減 ・販売費および一般管理費の削減 ・借入金削減等による支払利息の削減
9 売上高当期純利益率 当期純利益÷売上高×100[%]	↑	1.40	0.03	-1.62	1.30	! 2	0.99	! 2	売上高に対する当期純利益の割合を示し、企業活動が株主の配当原資や資本の増加にどの程度結びついたかを示す指標です。	売上に対し、売上原価や販売費および一般管理費、支払利息が過大であることにより、当期純利益が過小であることが原因です。 【改善策】 ・仕入方法の見直し、適正な在庫管理による売上原価の低減 ・販売費および一般管理費の削減 ・借入金削減等による支払利息の削減
10 売上高販管費率 販売費および一般管理費÷売上高×100[%]	↓	18.23	19.00	19.04	23.46	3	34.68	4	売上高に対する販売費および一般管理費の割合を示す指標です。	売上に対し、販売費および一般管理費が過大であることが原因です。 【改善策】 ・販売費および一般管理費の削減
11 売上高対人件費比率 人件費(販管費中)÷売上高×100[%]	↓	13.50	14.24	15.69	10.29	! 2	14.34	3	売上高に対する販売費および一般管理費の中の人件費(販管人件費)の割合を示す指標です。	売上に対し、人件費(販管費中)が過大であることが原因です。 【改善策】 ・人件費(販管費中)の削減

McSS 財務指標一覧算出結果

診断日: 2019/00/00

シーアールディーコウキョウカブシキカイシャ

業種: 輸送用機械器具製造業
都道府県: 福島県

貴社名: CRD工業株式会社

CRD法人2015年決算データ(2018年2月末時点)

指標名	良否	2016/ 03期	2017/ 03期	2018/ 03期	同業種 中央値	業界 財務ランク (5~1)	同都道府県 中央値	都道府県内 財務ランク (5~1)	指標の意味	ランクが低い場合の一般的な原因と改善策
③回転率・回転期間[貸借対照表の勘定科目を売上高から見た際に、投下資本の活動を把握・評価する指標]										
12 総資本回転率 売上高÷総資本(総資産)【回】	↑	0.57	0.55	0.49	1.31	!! 1	1.64	!! 1	企業が経営活動に投下した総資本の回収速度を示し、総資本(総資産)の運用効率を示す指標です。	売上不振や、不良在庫や遊休資産の増加等により総資本(総資産)が過大であることが原因です。 【改善策】 ・販路拡大等の売上増加対策の実施 ・不良在庫、遊休資産の処分
13 売上債権回転日数(割引・裏書譲渡手形含む) (受取手形+売掛金+受取手形割引高+受取手形裏書譲渡高)÷売上高×365【日】	↓	81.18	92.63	85.86	50.77	! 2	32.69	!! 1	割引手形と裏書譲渡手形を含む未回収の売上債権の回収に何日かかるかを示す指標です。	売上債権の回収サイトの長期化(回収条件の悪化等)や、不良債権の発生等が原因です。 【改善策】 ・販売代金回収条件の見直し(現金での取引を増やす、回収サイトの短縮化)
受取手形回転日数(割引・裏書譲渡手形含む) (受取手形+受取手形割引高+受取手形裏書譲渡高)÷売上高×365【日】	↓	34.96	38.78	38.30	/	/	/	/	割引手形と裏書譲渡手形を含んだ受取手形の回収に何日かかるかを示す指標です。	
売掛金回転日数 売掛金÷売上高×365【日】	↓	46.22	53.84	47.56	/	/	/	/	売掛金の回収に何日かかるかを示す指標です。	
14 棚卸資産回転日数 棚卸資産合計÷売上高×365【日】	↓	71.65	63.35	97.97	10.44	!! 1	6.35	!! 1	製品、仕掛品、原材料等の棚卸資産の平均的な在庫期間を示し、棚卸資産に投下された資本の効率を示す指標です。	売上不振による原材料、仕掛品、商品の増加が原因です。 【改善策】 ・販路拡大等の売上増加対策の実施 ・不良在庫の処分、適正な在庫管理の実施
15 有形固定資産回転率 売上高÷有形固定資産合計【回】	↑	0.93	0.93	0.76	4.27	!! 1	5.91	!! 1	土地・建物、機械設備等の有形固定資産の回収速度を示し、有形固定資産の運用効率を示す指標です。	売上不振や、土地・建物等への過大な投資が原因です。 【改善策】 ・販路拡大等の売上増加対策の実施 ・遊休資産の処分
16 買入債務回転日数 (支払手形+買掛金)÷売上高×365【日】	↓	61.62	62.30	66.04	15.34	!! 1	11.10	!! 1	仕入に伴う買入債務を支払うには何日分の売上高が必要であることを示す指標です。	買入債務の支払サイトの長期化(支払期日延期等、支払条件の変更)等が原因です。 【改善策】 ・仕入代金支払条件の見直し(現金での取引を増やす、支払サイトの短縮化)
支払手形回転日数 支払手形÷売上高×365【日】	↓	45.29	46.03	45.90	/	/	/	/	仕入に伴う支払手形の決済を行うには何日分の売上高が必要であることを示す指標です。	
買掛金回転日数 買掛金÷売上高×365【日】	↓	16.33	16.27	20.13	/	/	/	/	仕入に伴う買掛金を支払うには何日分の売上高が必要であることを示す指標です。	
17 運転資金月商倍率(ロカベン指標) ((受取手形+売掛金)+棚卸資産合計-(支払手形+買掛金))÷(売上高÷12)【月】	↓	3.00	3.08	3.87	1.32	!! 1	0.99	!! 1	所要運転資金(売上債権+在庫-買入債務)が何ヵ月分の売上高に相当するかを示すことで、資金繰り状況を把握するための指標です。経産省公表『ローカルベンチマーク』の財務指標『営業運転資本回転期間』に相当します。	売上に対し、所要運転資金が過大であることが原因です。 【改善策】 ・売上債権の管理回収、販売代金回収条件見直しによる売上債権額の削減 ・適正な在庫管理の実施による棚卸資産合計額の削減 ・仕入代金支払条件見直しによる買入債務額の増加

McSS 財務指標一覧算出結果

業種: 輸送用機械器具製造業
都道府県: 福島県

診断日: 2019/00/00
シーアールディーコーキョウカブシキカイシャ
貴社名: CRD工業株式会社
CRD法人2015年決算データ(2018年2月末時点)

指標名	良否	2016/ 03期	2017/ 03期	2018/ 03期	同業種 中央値	業界 財務ランク (5~1)	同都道府県 中央値	都道府県内 財務ランク (5~1)	指標の意味	ランクが低い場合の一般的な原因と改善策
④ 短期支払能力[資金調達の源泉と運用を分析することにより短期支払能力を評価する指標]										
18 流動比率 流動資産合計÷流動負債合計×100[%]	↑	145.57	133.61	168.17	168.86	3	162.14	3	短期的に支払義務のある流動負債に対して、その支払手段となる流動資産がどれくらいあるかを示す指標です。	短期借入金等流動負債が過大であるか、現金・預金や売上債権、棚卸資産等流動資産が過小であることが原因です。 【改善策】 ・収益性改善による、現金・預金等流動資産の増加 ・短期借入金等流動負債の、長期借入金等固定負債への切替
19 当座比率 (現金・預金+受取手形+売掛金)÷流動負債合計×100[%]	↑	84.68	86.29	80.50	126.66	! 2	117.38	! 2	換金性の高い当座資産と1年以内に支払期限が到来する流動負債との比率で、短期の支払能力を表す指標です。	短期借入金等流動負債が過大であるか、現金・預金や売上債権等当座資産が過小であることが原因です。 【改善策】 ・収益性改善による、現金・預金等当座資産の増加 ・短期借入金等流動負債の、長期借入金等固定負債への切替
20 支払準備率 現金・預金÷流動負債合計×100[%]	↑	18.48	19.02	7.53	56.70	!! 1	58.15	!! 1	短期的に支払義務のある流動負債に対して、その支払手段である現金・預金がどれくらいあるかを示す指標です。	短期借入金等流動負債が過大であるか、現金・預金が過小であることが原因です。 【改善策】 ・収益性改善による現金・預金の増加 ・販売代金回収条件の見直しによる現金・預金の確保 ・適正な在庫管理、遊休資産の売却による現金・預金の確保 ・短期借入金等流動負債の、長期借入金等固定負債への切替
21 現預金比率 現金・預金÷売上高×100[%]	↑	6.21	7.18	2.43	12.06	!! 1	10.69	!! 1	売上高に対して、手元の支払手段である現金・預金がどれくらいあるかを示す指標です。	売上に對し、現金・預金が過小であることが原因です。 【改善策】 ・収益性改善による現金・預金の増加 ・販売代金回収条件の見直しによる現金・預金の確保 ・適正な在庫管理、遊休資産の売却による現金・預金の確保
⑤ 資本の安定性[資金調達の側面から自己資本の安定性を分析する指標]										
22 自己資本比率(ロカベン指標) 資本合計(※)÷総資本(総資産)×100[%]	↑	25.63	25.16	25.88	15.64	4	12.34	4	企業が使用する総資本のうち、自己資本の占める割合がどの程度あるかを示し、資本構成から企業の安全性をみる指標です。経産省公表『ローカルベンチマーク』の財務指標『自己資本比率』に相当します。	貸倒れの発生や不良在庫増加等に伴う負債の増加や、赤字等により自己資本が過小であることが原因です。 【改善策】 ・収益性改善による自己資本の蓄積 ・借入金削減等、他人資本の圧縮
23 純資産倍率 資本合計(※)÷資本金(倍)	↑	6.81	6.81	6.61	2.33	4	1.25	4	自己資本の資本金に対する倍率で、内部留保(資本剰余金、利益剰余金等)の蓄積がどれくらいあるかを示す指標です。	大幅な赤字計上や累積赤字等により、自己資本が過小であることが原因です。 【改善策】 ・収益性改善による自己資本の蓄積
⑥ 調達と運用の適合性[調達資金の負債、自己資本と運用の結果である固定資産とがどの程度適合しているか評価する指標]										
24 固定長期適合率 固定資産合計÷(資本合計(※)+固定負債合計+特別法上の準備金)×100[%]	↓	89.22	91.12	87.33	68.01	! 2	66.01	! 2	自己資本と社債・長期借入金等の固定負債によって固定資産がどの程度賄われているかを示す指標です。 ※計算式中の分母部分がゼロ以下となる場合は評価しません。	赤字等により自己資本が過小であることや、固定資産に対する調達が短期借入金で実施していること、過大な設備投資により固定資産が過大であること等が原因です。 【改善策】 ・遊休資産の処分 ・収益性改善による自己資本の蓄積 ・短期借入金を長期借入金へ切り替える等、調達条件の見直し
25 固定比率 固定資産合計÷資本合計(※)×100[%]	↓	281.53	286.45	284.57	133.09	! 2	149.55	! 2	固定資産に投下された資本がどの程度自己資本で賄われているかを示す指標です。 ※資本合計がゼロ以下となる場合は評価しません。	赤字等により自己資本が過小であることや、過大な設備投資により固定資産が過大であること等が原因です。 【改善策】 ・遊休資産の処分 ・収益性改善による自己資本の蓄積

McSS 財務指標一覧算出結果

診断日: 2019/00/00

業種: 輸送用機械器具製造業
都道府県: 福島県

シーアールディーコウキョウカブシキカイシャ
貴社名: CRD工業株式会社

CRD法人2015年決算データ(2018年2月末時点)

指標名	良否	2016/ 03期	2017/ 03期	2018/ 03期	同業種 中央値	業界 財務ランク (5~1)	同都道府県 中央値	都道府県内 財務ランク (5~1)	指標の意味	ランクが低い場合の一般的な原因と改善策
⑦借入状況[資金の調達に関連している指標]										
26	借入金依存度 (短期借入金+社債+長期借入金+受取手形割引高)÷(総資本+受取手形割引高+受取手形裏書譲渡高)×100[%]	↓	62.77	63.17	62.36	59.32	3	59.81	3	企業が保有している資産のうち、どのくらいの資金が外部からの借入金等によって賅われているかを示す指標です。 【改善策】 ・遊休資産の処分による借入金の削減 ・販売代金回収条件や在庫管理の見直し等、運転資本圧縮による借入金の削減 ・収益性改善による自己資本の蓄積
27	デットキャパシタリティレシオ (短期借入金+社債+長期借入金+受取手形割引高)÷(現金+預金+有形固定資産合計)×100[%]	↓	97.00	99.57	95.40	107.74	3	101.71	3	企業が保有している現金・預金および有形固定資産と、有利子負債との比率で、資産を担保とした追加的な資金調達余力を示す指標です。 ※算出結果が負数となる場合は評価しません。
28	預信率 現金・預金÷(短期借入金+社債+長期借入金+受取手形割引高)×100[%]	↑	5.63	6.29	1.89	26.82	!! 1	29.26	!! 1	借入金総額に対する現金・預金の比率で、借入金の返済に備え、どれくらい現金・預金を確保しているかを示す指標です。 【改善策】 ・遊休資産の処分による借入金の削減 ・販売代金回収条件や在庫管理の見直し等、運転資本圧縮による借入金の削減 ・収益性改善による現金・預金の増加
29	借入金月商倍率 (短期借入金+社債+長期借入金)÷(売上高÷12)【倍】	↓	13.23	13.69	15.39	4.97	!! 1	4.25	!! 1	借入金が月商の何倍あるか、売上規模に対する借入規模の水準を示す指標です。 【改善策】 ・遊休資産の処分による借入金の削減 ・販売代金回収条件や在庫管理の見直し等、運転資本圧縮による借入金の削減 ・売上規模や資金使途を考慮した資金調達の実施
30	売上高支払利息・割引料率 支払利息・割引料÷売上高×100[%]	↓	1.95	1.98	2.36	0.56	!! 1	0.49	!! 1	売上高に対して、どの程度支払利息・割引料があるか、金利負担の水準を示す指標です。 【改善策】 ・借入金削減等による支払利息の削減 ・販路拡大等の売上増加対策の実施
⑧債務償還能力[有利子負債に対する利益償還能力を評価する指標]										
31	キャッシュフロー有利子負債比率 (当期純利益+減価償却実施額)÷(短期借入金+社債+長期借入金+受取手形割引高)×100[%]	↑	7.10	5.89	-0.78	9.88	!! 1	10.27	!! 1	有利子負債に対し、返済財源であるキャッシュフロー(当期純利益に、現金支出を伴わない費用である減価償却実施額を加えた額)がどの程度あるかを示す指標です。 【改善策】 ・売上増加対策やコスト削減等、収益性改善によるキャッシュフローの増加 ・遊休資産の処分による借入金の削減 ・販売代金回収条件や在庫管理の見直し等、運転資本圧縮による借入金の削減
32	インタレストカバレッジレシオ (営業利益+受取利息・配当金)÷(支払利息・割引料)【倍】	↑	0.46	0.06	-0.23	1.89	! 2	0.70	3	事業利益(営業利益+受取利息)が金融費用の何倍あるか、経常的な収益による金利支払能力を示す指標です。 【改善策】 ・売上増加対策やコスト削減等、収益性改善による事業利益の増加 ・借入金削減等による支払利息の削減
33	実質債務償還年数(ロカベン指標) (社債+長期借入金+短期借入金+受取手形割引高-現金・預金)÷(営業利益+減価償却実施額)【倍】	↓	14.37	15.90	-	4.25	-	3.25	-	返済財源(営業利益+減価償却実施額)が過小であることや、借入金等が過大であることが原因です。 【改善策】 ・売上増加対策やコスト削減等、収益性改善による返済財源の増加 ・遊休資産の処分による借入金の削減 ・販売代金回収条件や在庫管理の見直し等、運転資本圧縮による借入金の削減

McSS 財務指標一覧算出結果

診断日: 2019/00/00

シーアールディーコーキョウカブシカイシャ

業種: 輸送用機械器具製造業
都道府県: 福島県

貴社名: CRD工業株式会社

CRD法人2015年決算データ(2018年2月末時点)

指標名	良否	2016/ 03期	2017/ 03期	2018/ 03期	同業種 中央値	業界 財務ランク (5~1)	同都道府県 中央値	都道府県内 財務ランク (5~1)	指標の意味	ランクが低い場合の一般的な原因と改善策
⑨資産の健全性[企業の保有する資産の健全性を評価する指標]										
34	減価償却率 減価償却実施額÷(有形固定資産合計-土地+減 価償却実施額)×100[%]	↑	8.98	9.36	0.76	17.38	!! 1	19.25	!! 1	土地を除く有形固定資産に対する減価償却実施額の割合を 示す指標です。減価償却が適正に実施されているかを評価 します。 【改善策】 ・適正な減価償却の実施 ・老朽化により生産性の低下した設備の見直し(取替・更新)
35	売上高減価償却費率 減価償却実施額÷売上高×100[%]	↑	6.43	6.69	0.62	2.47	!! 1	2.40	!! 1	売上高に対し、減価償却費がどの程度計上されているかを 示す指標です。減価償却が適正に実施されているかを評価 します。 【改善策】 ・適正な減価償却の実施 ・老朽化により生産性の低下した設備の見直し(取替・更新)
36	流動資産その他流動資産比率 その他流動資産合計÷流動資産合計×100[%]	↓	1.69	0.99	2.62	2.96	3	3.19	3	仮に流動資産が過大であることが原因です。 【改善策】 ・仮払金や未収入金等、雑勘定の適正な処理 ・短期貸付金の回収
⑩成長性[前期と今期の決算書を比較して企業の成長性を評価する指標]										
37	前年比増収率(ロカベン指標) (売上高(当期)÷売上高(前期)-1)×100[%]	↑	-1.96	-0.88	-17.11	1.78	!! 1	0.98	!! 1	売上高が前期と比較してどれくらい増減したかを示す指標で す。経産省公表『ローカルベンチマーク』の財務指標『売上増 加率』に相当します。 【改善策】 ・事業環境の変化等による売上高(当期)の減少が原因です。 ・事業環境の変化への継続的な対応による売上確保 ・販路拡大等の売上増加対策の実施
38	総資本増減率 (総資本(当期)÷総資本(前期)-1)×100[%]	↑	-4.72	1.92	-5.62	1.29	! 2	0.66	! 2	総資本が前期と比較してどれくらい増減したかを示す指標で す。 【改善策】 ・事業環境の変化等に伴う設備縮小や在庫圧縮等、総資本(当期)の減少が原因です。 ・事業環境の変化等への継続的な対応による、事業の成長性維持

(※)資本合計 … 純資産合計-新株予約権

※ 財務指標算出に必要な入力項目に欠損がある場合、当該財務指標値は算出されません。

※ 財務指標値及び同業種中央値、同都道府県中央値は、小数点第三位を四捨五入して表示しています。

※ 決算月数が12ヶ月以外の場合、12ヶ月換算したうえで財務指標値を算出しています。